

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぱらネット

第23号



▲県立大宮高校ギター部50人の大合奏。ステージに上りきれなくて…

▼幕開けを待つ清水市長と
浅輪実行委員長

▼ヌウ君は人気者です



会場・埼玉県障害者交流センター

平成二十四年十二月一日(土)

「障害者週間」 市民のつどい

平成二十四年度



左 大塚暁子さん 右 酒井覚悠さん

東日本大震災のあと、さいたま市の建造物の耐震構造に関する点検が行われ、毎年会場としていた与野コミュニティセンターは工事のため、使用できなくなり、会場は埼玉県のご厚意によって埼玉県障害者交流センターホールを中心に使用させていただきますました。

使用上にいろいろな制限があり、使いこなすことの難しさもありましたが、ホールの壁に展示された各障害者団体の展示は、見やすく好評でした。

式典

心の輪を広げる体験作文 障害者週間ポスター表彰式

●ポスター

上木崎小学校3年 菱沼菜々子さん

柏陽中学校1年 佐藤光太郎さん

●作文

「わたしもがんばれる」

泰平小学校4年 大塚 暁子さん

「祖父から学んだこと」

常盤中学校1年 酒井 覚悠さん

今年の作文の

特色は、大塚さ

ん自身が耳の聞

こえにくさを抱

えながら将来は

ピアノの先生に

なりたいという

夢をもっている

ということ。た

くさんの拍手を

いただきました

た。



ずらりと並んだ各団体の展示、圧観でした

団体展示

メイン会場のホールの壁を二面使ってぎっしりと張り出された各団体の展示は、障害のある人の思いを訴える手段として、どの団体も工夫の跡が見られる傑作ぞろいでした。見てくださる方も多く、手前に置かれたパンフレットも手にとって読んでいただけました。



全スポぎふ清流大会の報告。がんばった人たち

全国障害者スポーツ大会 岐阜大会報告

首から下げたメダルがきらきら光っていました。二つも下げた人がいて、重そうでしたね。水泳や車いすレースでは、新記録もたくさん出たとのこと。みなさんががんばりましたね。

役員、コーチのみなさんもごくろうさまでした。

来年は東京大会です。またがんばりましょう。

基調講演

トークと
音楽ライブ

「新しい生活 今を生きる！」

猪瀬 剛氏
猪瀬 泰生氏

十二月一日、「市民の集い」

の基調講演として、埼玉県筋ジ
ストロフィー協会さいたま市支
部に所属している猪瀬剛（兄三

十六歳）猪瀬泰生（弟三十歳）
による、トーク&ライブをさせ

ていただきました。

最初にボーカリスト、猪瀬泰
生が「SONG（歌）」という

曲を熱唱し、伴奏者（ギター）
2名によるアンサンブルはすご

く良かったと思います。猪瀬剛
は「限られた時間の中で伝えた

いこと」という題目で講演しま
した。この講演の最後に、「母

に、障害者に産んでくれてあり
がとう」という言葉を伝えまし

たが、司会の宮部さんから感銘
のことがばをいただき、講演して

よかったと思いました。

その後弟泰生のライブは続
き、アンコールも含め3曲を熱
唱しました。

僕たち兄弟は進行性の病気の
ために出来ることが限られてい
ますが、歌や講演という方法で

多くの方に僕
たちのことを
お伝えしたい
と思っていま

す。

今後ともよ
ろしくお願い
します。

最後になり
ますが、会場
にお越しくだ

さった方々の
暖かい拍手、



猪瀬兄弟とサポーターによるメッセージと音楽、生きる力がみなぎる講演でした。

本当にありがとうございます
た。この場をお借りしてお礼申
し上げます。

猪瀬 剛



大きな辰と遊ぶ子どもたち。迫力いっぱい！

周囲を飾るかわいい子どもた
ちの姿もやさしくて、たくさん
の方が見入っていました。

模造紙三枚分の紙に手でちぎ
った紙が張り付けられ、躍動す
る二十四年の干支「辰」が表現
されています。

ロビーに展示された作品の中
で、ひときわ目を引く大きな貼
り絵がありました。

作品展示

アトラクション

障害を超えて楽しく…

えんじょい太鼓クラブ
風間とみゑ

障害者週間市民のつどいに参加し、舞台に立たせて頂く事ができ本当に感謝をしています。実は私達の演奏を見に来てくれた一人の友人が「障害を持ち



視覚障害の方は盲導犬といっしょにステージへ

ながら一生懸命で太鼓を叩いている姿を見ていたら、すごいなーと思った。」と涙を流しながら語ってくれました。その言葉は、とても嬉しかったです。

太鼓は力強い大きな音を出すのが一般的ですが、力の加減を柔らかくすると、川のせせらぎの音や、春の風の音を感じ、心を和ませる音になるのです。

和太鼓に対する視点を少

し変えると、障害者にとって楽しめる楽器の一つだと思っています。これからも、体力増強に和太鼓を活用していきたいと思っています。

みなさん 元気になれましたか

ワッツ・ゴスペル 金澤 礼子

昨年十二月に行われた「障害者週間市民の集い」でゴスペルを歌わせていただきました。歌うことで自分たちが元気になるゴスペルは、聴いていただく皆さんも元気になっていただけるのではないかと願いながら活動しています。

今回参加させていただいた「市民のつどい」でも、会場にいらした大勢の皆さんが歌に合わせて体を動かし感情を表現していたり、一緒に口ずさんでいただったりしました。私たち自身、歌っていてとても感激し、またうれしかったです。



歌を通して障害のある人もない人もみんな楽しんで暮事ができたと思います。私たちワッツ・ゴスペルは、これからも歌うことで、人々との触れあいや絆を大切にしていきたいと思っています。

物品販売コーナー

よく売れました

今年度は従来開催されていた中央区コミュニティセンターが耐震工事のため使用できず、埼玉県障害者交流センターで催され、不安もありましたが、全体としては盛況でした。障害者団体、九団体が参加しました。

昨年の開始時間の制限が不評だったので、開始時間は9時からとなり、開始と同時にお客さんがたくさん来て、和やかな交

流が見られました。

交流センター利用の

方たちも参加して物品

販売は概ね盛況でした。

各団体間の交流も行わ

れ、大変有意義な販売

光景がみられました。

衛生上の問題もなく

無事に終わることがで

き、関係者皆様方のご協力に感謝申し上げます。

ノーマライズうらわ

矢嶋 脩司

矢嶋 脩司



野菜がいっぱい！身体障害者福祉協会の販売は、元気な女性が盛り上げていました。ご苦労さま～



売る方もここに、買う方もここに。みんなで楽しくとり組んだ物品販売でした

さいたま市視覚障害者福祉協会は、てつぼう漬、奈良漬、それにお茶の販売をしました。担当の松島、内田、藤崎、古川さんがお客の呼び込みに奮闘しました。

身体障害者福祉協会は取りたての野菜をたくさん出品して、担当の清水、緑川さんほか二名の男性が、声をからして販売していました。

ノーマライズうらわのカレ



は安くておいしかったとの話がありました。

今年度は、準備

ができしだい販売

がみとめられました。

そのため売れ

残りが少なかつた

のかもしれない。

実行委員

中野 勇

新しい世界を 切り開く

つもりで

実行委員長 浅輪田鶴子

実行委員の方々の原稿にもあるように、前回までの開催会場となっていた与野本町コミュニティセンターが耐震工事のために使用できなくなったので、障害福祉課の助言によって県立である埼玉県障害者交流センターの利用をお願いに行くとところか



ロビーに展示された力作の数々

ら、今年度の事業がスタートしました。

準備が始まってみると、予想以上に制約があることに気づきました。やるしかないという覚悟で準備に取り掛かりました。

不安は多々ありましたが、結果としては、コンパクトにまとまったいい事業になったと評価をいただきところまで行き着くことができました。

*作品展示

入口を入った目の前に場所を確保して、出展作も多く、好評でした。

*アトラクション

県立大宮高校のギター演奏は出演者五十人に及び、ステージに上り切れなくなりました。出演の生徒さんは、自分用のいすを抱えて、ステージまたはステージ下に並びました。

*団体展示

ホールの壁2面を使って展示しましたが、ホールに来た方が



幻聴幻覚の体験は目立たない奥で…

熱心に見てくださいました。

*体験コーナー

物品販売の賑わいに隠れて、奥まったところになってしまったので体験者は昨年より、かなり減りました。

来年に賭けましょう。

観客の数が多かったのは、日常的に交流センターを利用している



車いすで、補聴器をつけて…ステージに見入る人たち

方々の参加があったことも考えられます。

来年は与野本町コミセンで開催することが予定されていますが、障害理解を進めるために、実行委員の皆さん、ご来場のみなさん、来年もよろしくお願いします。

会場が変わっても定着した賑わいでした

今年度は主担当として平成二十四年度障害者週間「市民のつどい」開催事業に関わらせていただきました。

昨年度と大きく違う点は、会場が埼玉県障害者交流センターに変わったところでした。ホールや授産製品販売スペースでは、一日を通してお客様で賑わっていました。

障害・難病者制作品展示コーナーでは、昨年度を上回る出品数で、全体を通して非常に活気がありました。

初めての会場にもかかわらず、昨年度とほぼ同数の方にご来場いただけたのは、実行委員の皆様の大ご尽力があったことはもちろんですが、埼玉県障害者交流センターが、障害当事者や関係者にとってよく知られた施設だということのひとつの要因ではないでしょうか。

来年度には再び与野本町コミユニティセンターに戻りますが、「障害者週間」市民のつどいが市民の皆様にも広く認知され、障害のある人もない人もともに生きる社会が実現するよう、尽力してまいります。

さいたま市障害福祉課

早田 清剛

アンケート集計から

(回答者 40名)

今回の催しについて

楽しかった 35 楽しくなかった 0
どちらとも言えない 2 無回答 3

印象に残ったものは

猪瀬兄弟 14 スポーツ大会報告 10
大宮高校ギター 13 団体展示 11
授産製品等販売・模擬店 11

ご意見

- 毎回楽しみにしている。来年も楽しみ
- 改めてそうだったのかと知る機会になる
- 初めてでしたが83歳の自分の生き方を考えさせられた。孫たちにも話す
- いろいろな障害者団体の活動を知ることができた
- 楽しいので来年も参加します
- 盛りだくさんで楽しめた

会場について

- 駐車場がひろくてよい
- センターの近くに住みながら、始めて参加して勉強させられた
- 与野本町コミセンが親しみやすい
- 普段から来ているところなのでいい
- 交流センターもいいが、コミセンで行った方が障害のない人が参加しやすいのでは
- 近所での開催だったのでよかった。数年に一回でもここでお願いします
- 一般市民をどれだけ呼べるか、周知方法等工夫がいる

平成24年度「障害者週間」市民のつどい

◎ホール (午前10時30分から午後2時30分)

式典

- 主催者挨拶
- 心の輪を広げる体験作文・障害者週間ポスター表彰式
- 第12回全国障害者スポーツ大会「ぎふ清流大会」結果報告会

イベント

- 基調講演 午前11時15分～
トークと音楽ライブ
進行性筋ジストロフィーの兄弟が織り成す…
『新しい生活、今を生きる!』
講師 猪瀬 剛 氏 / 猪瀬 泰生 氏
- アトラクション 午後1時～
 - 太鼓 えんじょい太鼓クラブ
 - ゴスペル ワッツ・ゴスペル
 - ギター演奏 埼玉県立大宮高校ギター部

◎その他

- 障害者・難病者作品展示
- 体験コーナー(幻覚・幻聴バーチャル・手話講座)
- 授産自主製品等販売・模擬店
- 障害・難病者団体紹介展示

私、オストメイトです

公益社団法人日本オストミー
協会さいたま支部

松岡 英嘉

直腸ガン、膀胱ガン、数少ないが怪我や事故によって人口肛門や人工膀胱を保有する人たちを総称してオストメイト(ストーマを持っている人)と呼びます。

人工の...という人工心臓や人工関節のように人体の器官の機能を代行する「人工臓器」を想像されるかもしれませんが、ストーマは臓器ではなく、単に便(尿)を排泄させる、正しくは「消化器ストーマ」「泌尿器

ストーマ」と呼び、ストーマを使っていてる患者を「オストメイト」と呼びます。ストーマとは、もともとギリシャ語で、「乳頭状に突出した口」という意味です。

私は平成六年、膀胱がんによる膀胱全摘出でオストメイトになりました。

オストメイトは身体障害者福祉法による障害者と認められているのですが、最大の悩みは、外見からは障害があるように見え、しかも、一番口に出して言いづらい部位の障害であるということです。

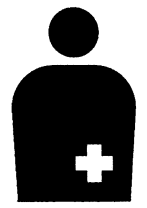
公益社団法人日本オストミー協会埼玉県支部、さいたま市支

リレートーク わたしはわたし



●松岡英嘉さんプロフィール●
昭和12年9月12日筑豊に生まれる。当人は当初より更生障害者であると、すべてに制限なし。カメラを肩に一人旅で全国の城めぐり。オストメイトになって多くの仲間ができた。

部では、社会参加適応訓練事業の一環として医療講習や相談・交流会を開催しています。



オストメイト
マーク

また、補装具のメーカー、装具販売業者による製品の展示や装具のアドバイスも受けられます。

よい装具を選ぶことは、便・尿のもれやそれに起因する皮膚障害を予防し、オストメイトのQOL(生活の質)を向上させるための重要なポイントになります。

装具の特徴を理解し、正確な知識を持って適切な装具を選択する「語り合い・支え合う仲間」の輪をスローガンに、情報を共有して、

よりよい明日へ。支部行事に足を運んでみませんか。



事務局だより

十二月に行われた衆議院選挙で圧倒的な自民党の勝利で、呆気なく政権交代となりました。みなさんは何を期待されるでしょうか？私は娘の就職活動を通じて若者の雇用を期待します。今の若者はゆとり教育で学びジャンクフードで育ち、ネット依存してしまいがちな、そんな環境で育ってきたのだと思います。それで、厳しい就職活動。若千数の募集に対し千人を超える応募、私たちの時代では考えられない7、8次試験はあたりまえ、最終面接で半分を簡単に落としてしまいます。就職を諦めて活動をやめてしまう人もたくさんいます。どうか、若者が仕事に就くことができて、結婚して、子供を持てる、そんな当たり前のことが安心してできる世の中にしてもらいたいと切に願います。

事務局 松澤

発行 さいたま市障害者社会参加推進センター

〒330-0801
さいたま市大宮区土手町

大宮ふれあい福祉センター4F
TEL 〇四八・六五三・七二七一
FAX 〇四八・六五三・七三四一
http://www.satama-planet.com/
e-mail satamacity-handynet@bz03.plala.or.jp

発行・編集人 浅輪 田鶴子